

景観形成基準

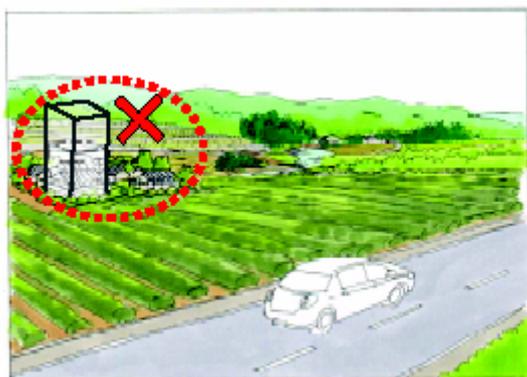
地域別景観形成方針は、地域別による景観的まとまりと当該地域の土地利用のあり方などを踏まえた目標を示しており、景観形成基準は景観的に必要な配慮事項の例をあげて具体的に示すこととします。

ここで述べられている基準の扱いについては、一定規模以下の建築行為などであれば、特に届出などの行為は必要ありません。あくまでも個々の市民や事業者の方々が、自主的に活用していただくものとして用意してあります。

また、ここでは具体的な事例写真や解説図を掲載するように努めておりますが、今後、より優れた事例が実現することも期待されることから、このような事例・提案も反映しながら、その充実に努めてまいります。

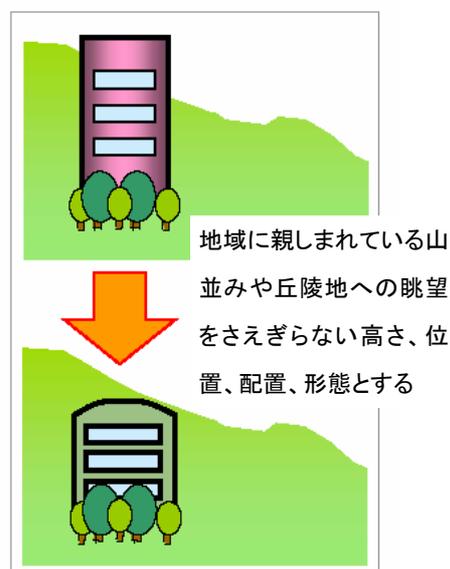
(1) 高さ

- ・ 周辺の自然環境や田園景観と調和し、まとまりのある高さとなるよう配慮する。
- ・ 周辺のまち並みから突出しない高さとなるよう配慮する。
- ・ 背景となる山並みの稜線や斜面緑地帯を分断しない高さとする。



周辺の自然環境や田園景観と調和したものとなるように突出した高さのものを避ける

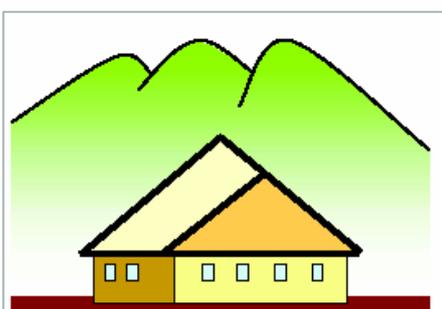
道路、公園、まち並みから見たときに、自然環境・田園景観やまちなみの連続性に配慮した高さになるように計画することが必要です。



(2) 形態・意匠

- ・ 周辺の自然環境や田園景観と調和し、落ち着いてまとまりのある形態・意匠、素材とする。

「周辺の自然環境や田園景観と調和し、落ち着いてまとまりのある形態・意匠、素材」とは、国・県・市道、公園などから見たときに、例えば建物の屋根は勾配屋根にすること、壁面の色相を2系統（色相の10種の基本色のうち隣り合う3つの基本色をまとめて1系統という。アクセント色は除いて考える）までにすること、素材は木や石などの自然素材や日本瓦にすることなどをいいます。



屋根の形態を工夫することにより、見る人に背景との関係を意識させることができます。

【色相の系統】

色相の10種の基本色のうち隣り合う3つの基本色をまとめて1系統といいます。

下表の矢印で示す範囲がそれぞれ1系統になります。

赤 R	黄赤 YR	黄 Y	黄緑 GY	緑 G	青緑 BG	青 B	青紫 PB	紫 P	赤紫 RP
←	←	←							
	←	←	←						
		←	←	←					
			←	←	←				
				←	←	←			
					←	←	←		
						←	←	←	
←	←							←	←

- ・ 周辺のまちなみと調和し、まとまりのある形態・意匠、素材とする。
- ・ 用途地域内では、周辺のまちなみと調和し、まとまりのある形態・意匠、素材とする。

「周辺のまちなみと調和し、まとまりのある形態・意匠、素材」とは、和風、洋風等の様式のデザインの方向性や使用する素材・色彩に、周辺とつながりを持たせることなどをいいます。特に、壁面のデザインは周辺の建物のデザインと違和感のないものにすることが望まれます。



周辺の建物と著しく形態や色彩の異なる広告塔や看板などは、まちなみとの調和を阻害します。



建物の形態・意匠、色彩、素材など特定のテーマにより、統一したまちなみを形成しています。

特に、社寺や旧家等、歴史的意匠を有する施設に隣接する場合は、これらとの調和に配慮するとともに、木質系素材や自然石等、自然素材を活用し、生垣や建物意匠、素材、色彩などに工夫が必要です。

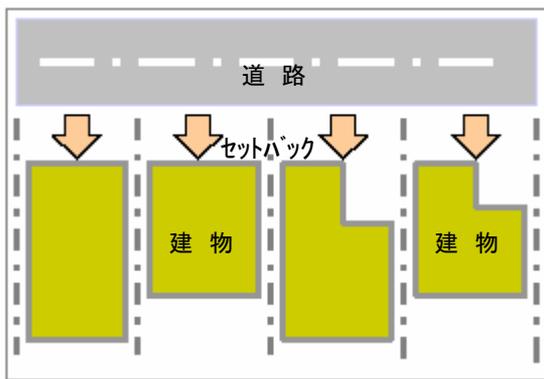


(3) 壁面

- ・ 通りに面する壁面は、道路境界からの後退や接道部への植栽等により、ゆとりのある空間の創出に努め、工夫することにより圧迫感・威圧感を与えないようにする。

「ゆとりのある空間」とは、壁面の後退、低い塀の設置、中木の植栽等により、道路にいる人に圧迫感・威圧感を与えない空間をいいます。

心地よさをもたらすため、道路とのつながりを意識した舗装材や植栽する樹種などを選択し、活用することも有効です。



壁面を敷地境界から後退させることにより、ゆとりある空間をつくり出せます。また、後退距離を一定にすることによって、統一感のある建物の並びを生み出せます。



壁面を後退させ歩行者空間として活用し、豊かな緑のある空間を創出しています。



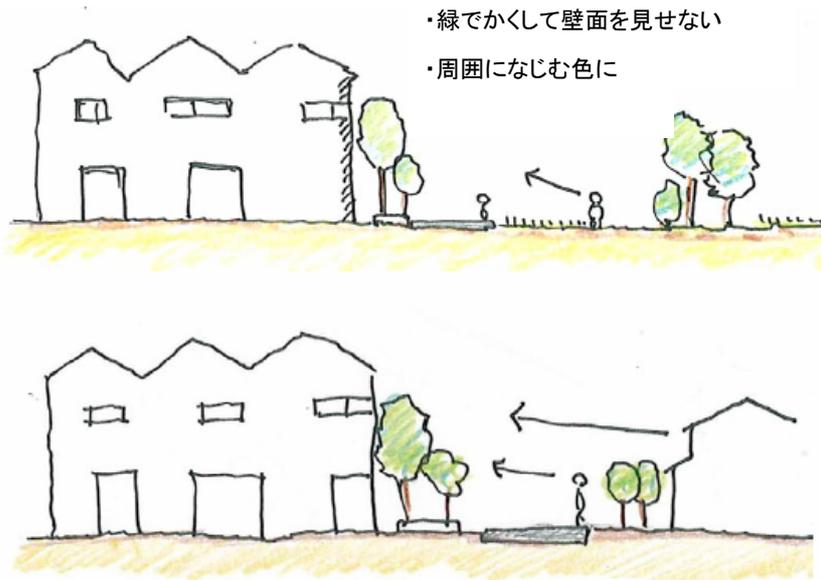
道路側に美しく手入れされた植栽を配し、潤いのある空間を創っています。



板塀の前面に花壇を設け、屋敷内の植栽とあわせ緑豊かな奥行きのある空間を演出しています。

工業系地域に、住宅地や商業地、田畑などが、隣接している場合には、地域外からの眺めに配慮が求められます。

敷地内を緑化することで、大きな壁面を周囲に見せないようにして、周辺に調和した色彩を採用することが有効です。



駐車場前面に緑地スペースを設け開放感と潤いのある緑豊かな空間を創っています。

(4) 屋外設備

- ・ 屋外設備(エアコン室外機、高架水槽)は、道路など公共の場から見えない位置に設置する。やむを得ず設置する場合は、覆うか色彩に配慮する。

給水塔、エアコン室外機、電気メーターなどは、計画段階で設置場所などを景観に配慮することにより、まとまりのある空間をつくりだすことができます。

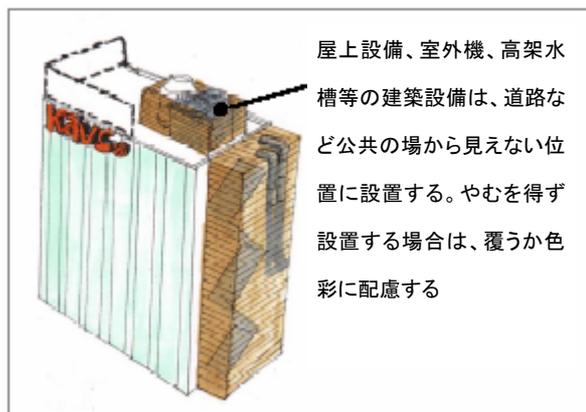
特に給水塔などは高所に設置されることが多く、視界に入りやすいため、建物と調和するように形態や色彩などに配慮し、囲いを設けるなどの工夫が大切です。



建物の雰囲気に合わせて面格子のエアコン室外機の囲いを設け、建物の印象を壊さないようにしています。



建物前面の面格子で、自転車やエアコン室外機を見えにくくすることにより、建物の印象を整えています。



屋上設備、室外機、高架水槽等の建築設備は、道路など公共の場から見えない位置に設置する。やむを得ず設置する場合は、覆うか色彩に配慮する

市役所庁舎では、この部分に外壁と同色系のルーバーで屋上設備を覆っています。



屋上の建築設備を外壁と同じ色彩の部分的なルーバーで遮へいすることにより、建物と一体的に見せています。



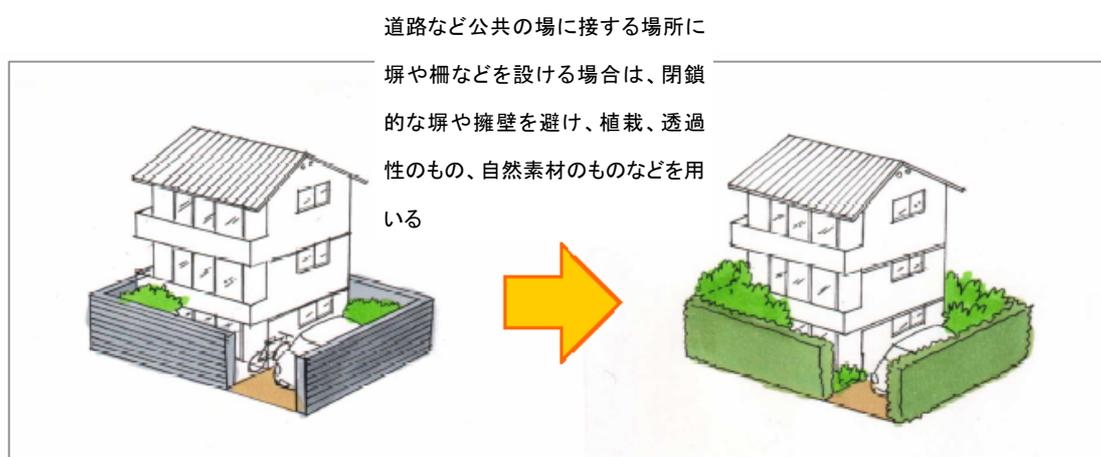
引込柱に外壁と同色系のメーターボックスを取り付けています。

建物に直接電気メーターボックスを取付けず、敷地内の引込柱に取付けることにより、建物がすっきり見えます。また、どうしても引込柱を設置できない場合は、外壁と同色系のメーターボックスを取付けるなどの工夫が大切です。

(5) 外構

- ・ 道路など公共の場に接する場所に塀や柵などを設ける場合は、閉鎖的な塀・擁壁を避け、植栽、透過性のもの、自然素材のものなどを用いる。

「植栽、透過性のもの、自然素材のものなどを用いる」とは、例えば、植栽を行うこと、ルーバーなど透過性のあるものを用いること、木や石などの自然素材や擬木などを用いることなどをいいます。



住まいと石積と植栽が調和し、道行く人にうるおいとやすらぎを与えてくれます。



竹垣と植栽を用いて、閉鎖的な印象とならないように工夫された塀。



建物の雰囲気に合わせて色彩のプラスチック製の竹垣。



道路の角地を坪庭として活用し、道行く人を和ませてくれています。



板塀を建物の外壁と同色とし、落ち着いた雰囲気に仕上がっています。



目透かし張りの板塀とコンクリートブロック塀を工夫し、敷地内部の緑や内側の人の気配がうかがえます。

(6) 駐車場など

- ・ 無機質になりがちなコンクリート舗装の駐車場に自然素材の舗装材を使用することや、花壇を設置することで緑化に努める。

「自然素材の舗装材を使用する」とは、例えば、コンクリートの中に入れた自然石の洗い出しや樹脂舗装などの工法があります。

コンクリートの表面に自然石を混ぜ、水などで自然石を洗い出すことによって自然な印象が演出できます。



駐車場の床面に直線的に緑を取り入れ、玄関アプローチと併せ、ゆとりある空間を演出しています。

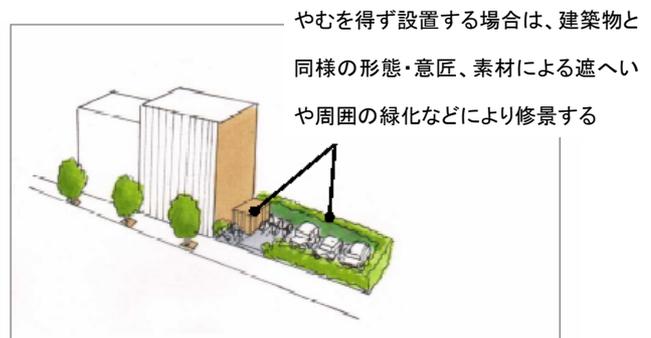
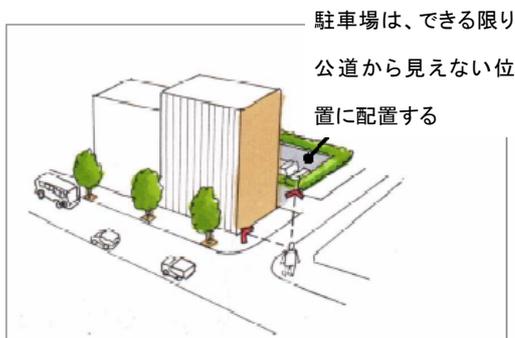


低い塀で囲まれた前庭と駐車場が開放的な印象を与えています。

・ 駐車場、駐輪場、ごみ集積所などは、公共の場からできる限り見えないように設置する。やむを得ず設置する場合は、建築物と同様の形態・意匠、素材による遮へいや周囲の緑化に努める。

「公共の場からできるだけ見えないように設置」とは、できる限り道路や公園などからは見えなくすること、植栽やルーバーなどで覆うように努めることをいいます。

また、「建築物と同様の形態・意匠、素材による遮へいや周囲の緑化などを行う」とは、例えば、建築物本体と同様の形態・意匠とし連続性のあるデザインにすること、建築物と同様の素材や植栽などで、公共の場から見える部分をできるだけ覆うことをいいます。



植栽などにより駐車場を囲むときは、犯罪防止や安全安心な空間となるように、ある程度の透視性を確保する必要があります。



・ 駐車場の例

花壇に建物の外壁と同様のタイルを使用し、建物と連続性を持たせ、緑化に努めています。



・ ゴミ集積場の例

高さの低いコンクリートの塀と緑で周囲を囲み周辺的环境に配慮しています。

(7) 公共建築物や道路など

・公共建築物や道路などの公共工事では、できるだけ緑化に努め、周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。

道路、公園などの都市基盤施設、また学校や官公庁、公民館などの公共施設の公共工事では、できるだけ緑化に努め、周辺の自然環境に調和するような配慮が大切です。



敷地内にある既存樹木を伐採せずに、建物の配置計画に活用されています。

・地域に親しまれてきた樹木、生垣などは、大切な景観資源としてできる限り保全することが大切です。やむを得ず保全できない場合は、移植やこれに代わる植栽をするなど工夫が必要です。



法面を緩やかな勾配にして、周辺環境に配慮し、緑化を図っています。

・法面が発生する場合は、高さや長さを抑え、既存の斜面と滑らかに連続するように、法尻、法肩を丸みによってなだらかに仕上げ、自然の地形にできる限りなじむような配慮が重要です。やむを得ず、大規模な法面が生じる場合は、法面を分割するなど、圧迫感を低減するよう配慮する必要があります。

・ 公共工事などで景観に配慮した具体例

歩道内にある緑地帯を住民の手によって維持管理がなされ、コミュニティを形成するためにも一役かっています。



周辺の自然環境に配慮し、ガードレールやコンクリートポールの色彩を茶系にしています。



コンクリートの水路と敷地境界の竹垣の間にある空間を活用し、緑化に努めています。



わずかな空間でも緑を配置することによって、景観にうるおいをあたえることができます。

(8) 屋外広告物や看板など

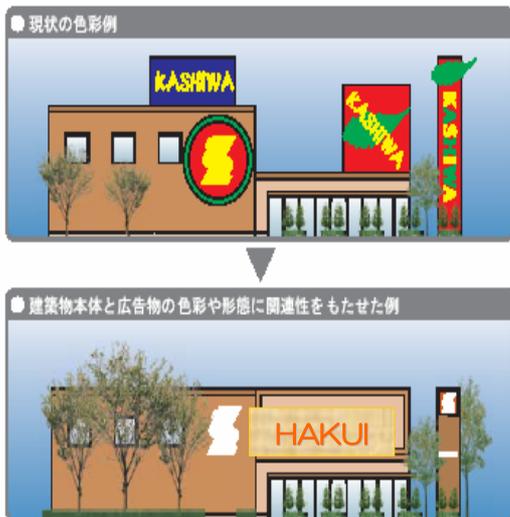
・屋外広告物や看板などは、周辺の自然環境やまちなみと調和する形態、意匠、素材とし、威圧感や圧迫感をなくするよう工夫する。また、夜間は周辺の自然環境などにふさわしい明るさとなるよう配慮する。

歴史的な建造物（神社、寺院、文化財、史跡など）の周辺では、大規模な広告物や工作物の設置、原色や華やかな色彩を控えて、まちの風景が損なわれないような配慮が必要です。

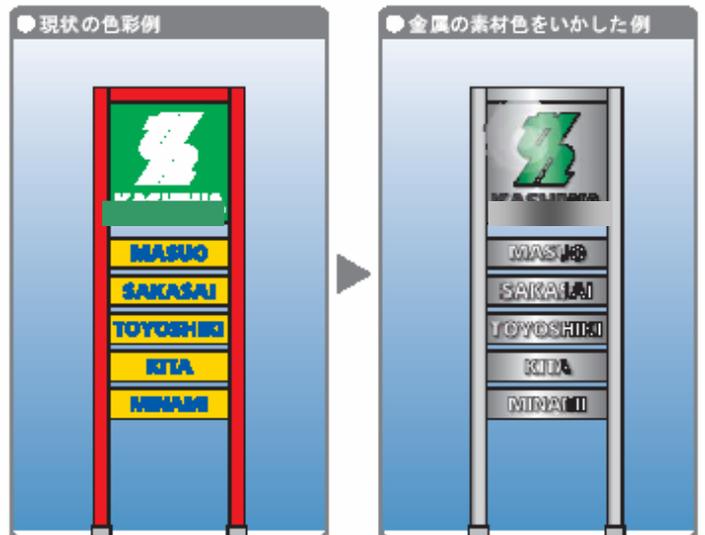
また、屋外広告物、看板などに使用する色彩は、高彩度色（派手でけばけばしい色）を避けて、穏やかな低彩度を基本に、周辺の景観に合わせた明度や彩度を工夫することにより、雰囲気の良い屋外広告物・看板などとなるように配慮する必要があります。



周辺の建物と著しく形態や色彩の異なる広告塔や看板などは、自然環境やまちなみの調和を阻害します。



広告物の掲げ方を工夫し、建物本体との間に色彩や形態の共通性をもたせると、まとまりのある外観となり、建物全体の雰囲気が向上します。



表面的に派手な色彩で化粧するのではなく、木材や金属がもつ素材そのものの色彩をいかし、照明などの工夫をすることにより高級感のある飽きのこない表現になります。

- ・ 景観に配慮した具体例



周辺の山なみをイメージしたもので、色彩についても周辺的环境に配慮したものにしています。



シンプルなデザインで、店のセンスのよさが感じられます。



公園のシンボルである木材の丸太を使用し、サインで表示されている公園施設がイメージされます。

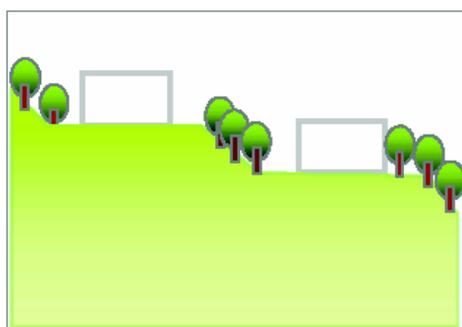
(9) 開発行為、土石の採取、土地の開墾、屋外での土石の堆積類など

このページ以降に定める景観形成基準については、開発行為の許可基準など、他法令に定められている技術的基準を優先させた上で、適用することとします。

○ 開発行為、土石の採取、土地の開墾

- ・ 大規模な木竹の伐採はできる限り避け、行為の範囲は必要最小限とする。
- ・ 行為の間や行為の後に地肌の露出が、道路など公共の場からできる限り目立たないように採取、掘採位置及び方法(植栽など)を工夫する。

自然の地形の眺めは地域の人々に親しまれ、安心感を与えてくれます。大規模な木竹の伐採や地形の改変は、地域の景観に大きな影響を与えてることから、現状の自然や植生や地形をできる限り尊重しつつ、道路など公共の場から見える位置での伐採、地形の改変はできる限り避ける必要があります。やむを得ず見える場合は、行為の範囲を最小限とし、植栽によりできる限り目立たないように配慮する必要があります。

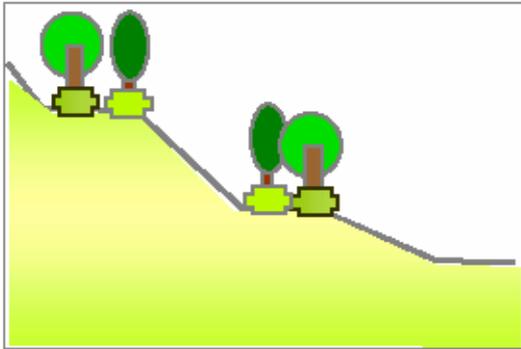


現状の植生を活かした造成

- ・ 法面は、できる限り緩やかな勾配とし、緑化などにより周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。

法面が発生する場合は、高さや長さを抑え、既存の斜面となめらかに連続するように、法尻、法肩を丸みによってなだらかに仕上げ、自然の地形にできる限りなじむように工夫が必要です。やむを得ず、大規模な法面が生じる場合は、法面を分割するなど、圧迫感を低減するように配慮する必要があります。

また、擁壁は圧迫感のある景観をつくり出すため、できる限り擁壁をつくらないように工夫し、やむを得ない場合は、法面との組み合わせによって圧迫感を低減するなどの配慮が求められます。



法面段部の緑化にも配慮する



法面を緩やかな勾配にして緑化した例

- ・ 市街地景観の背景となる斜面緑地については、周辺の植生に配慮して緑化に努める。

市街地景観の背景となる斜面緑地などは、重要な景観要素の一つであるため、行為地を緑化する際には、周辺の緑地を調査し、周辺環境に影響のない樹種（地域に前から多く生育する樹種、在来種など）を選定するよう特に配慮が必要です。

また、同一種ではなく様々な樹種の組み合わせや低木・地被植物などの組み合わせによって四季の感じられる緑豊かな景観形成に配慮することが大切です。

- ・ 擁壁は素材、表面処理の工夫、前面緑化などにより、周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。

擁壁の素材には、コンクリートではなく、自然石などを使用し周辺の自然環境や生態系への配慮が必要です。やむを得ずコンクリート製品などを使用する場合には、表面の仕上げを自然石にしたり、草木や低木などが植栽可能な構造とするなど、圧迫感を低減し、周辺の自然環境やまちなみと調和することが重要です。

- ・ 敷地内にある良好な樹木、水辺などの自然資源をできる限り保全し、生態系に配慮して活用するよう努める。

敷地内にある樹木や水辺などは、大切な景観資源としてできる限り保全することが大切です。また、土地の区画形質の変更によって同じ場所に樹木を残すことができない場合は、移植などによって修景に努めるなどの工夫が大切です。

- ・ 水面の埋め立てにより生じる護岸などは、素材、形態の工夫により、自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。

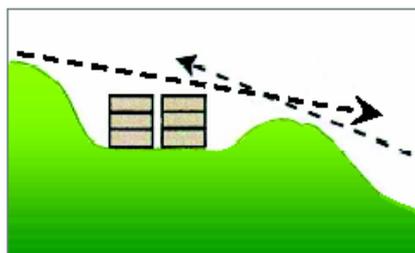
水面の埋め立てにより生じる護岸、擁壁などについては、自然石の積み上げや表面を石張りにするほか、自然素材に似せたコンクリート材を使用するなど、人工的な印象をやわらげるような工夫が必要です。

○ 屋外での土石などの堆積

- ・ 堆積物は、道路などの公共の場から見えないように配置を工夫するとともに、できる限り高さを抑える。

「土石など」とは、土石、廃棄物、再生資源、材木、その他屋外に堆積（集積、貯蔵）させた物件全般をいいます。

これらが歩道や隣地に迫って堆積されると圧迫感や不安感を与えると同時に、景観を阻害するため、道路や敷地境界からできる限り離す、高さを抑えるなどして、公共の場から見えにくくなるような工夫が必要です。

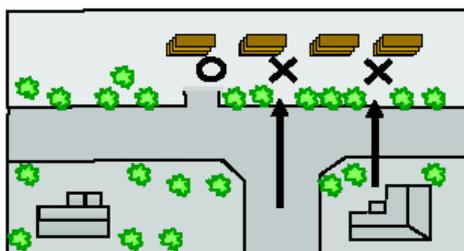


丘陵地での堆積では、上や下にある公共の場から見えにくくなるように工夫する

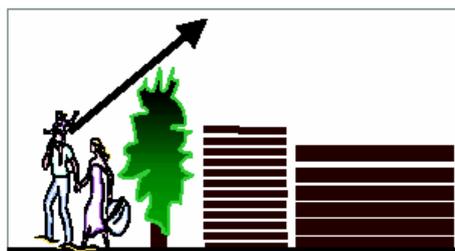
- ・ 道路などの公共の場から見える場合は、植栽や圧迫感のない塀の設置などによる修景を行う。

道路など公共の場から見える位置に場合は、中木・高木などによる植栽やできる限り低い塀を設けることにより、景観への影響を緩和するよう配慮が必要です。

また、出入り口の数は最小限とし、出入り口が目立たないよう交差点付近や宅地の前などには、設置しないなど、道路から堆積が見えにくくなるような配慮が必要です。



出入り口は交差点や宅地の前などに設置しない



植栽による遮蔽の工夫

- ・ 整然と集積・貯蔵し、敷地外に流出しないよう安全性にも配慮する。



集積・貯蔵物は雑然と積み上げるのではなく、高さや向きを揃えて配置することにより、すっきりと見えるような配慮が必要です。

高さや向きを揃えるように配置する